



BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 22 号

平成 28 年 1 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

03-5394-3079（直通）

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

平成 28 年 年頭にあたり

学長 大塚 伸 夫

平成 28 年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

大正大学が西巣鴨の地に創設され、爾来、本年で創立 90 周年を迎えます。これもひとえに建学の理念「智慧と慈悲の実践」のもとに本学を支えてこられた多くの関係各位のお力添えの賜物と厚く感謝いたします。

本学では、この記念すべき年に新学部〈地域創生学部〉を 4 月に開設して、日本の次世代を担う人材を育成しようと新たな試みに挑戦してまいります。また、人間学部より人間科学科と臨床心理学科を独立させて、新たに〈心理社会学部（仮称）〉を 4 月に設立する予定です。これによって本学は、地域創生学部・心理社会学部・人間学部・文学部・表現学部・仏教学部の 6 学部となる予定です。

こうした大きな変革を迎え、地域連携・社会貢献を活動基盤にすえながらも、本年度は、以下の 8 項目について重点的に取り組みたいと考えています。

- ① 志願者募集体制・入学試験の改革
- ② カリキュラムの改善と見直し
- ③ 学生サービスの充実
- ④ 就職支援の強化
- ⑤ 大学院の抜本的改革案の策定
- ⑥ 研究費獲得の企画立案の推進
- ⑦ ハラスメントの防止
- ⑧ 90 周年記念行事

上掲のいずれも本学の運営にとって必須の項目ですが、何よりもまして①志願者募集体制と入学試験の改革は、18 歳人口の再減少化問題を見据えた、大学淘汰の時代を乗り越えるために必須の課題と考えます。この課題を大学への「入口」と喩えるなら

ば、次の②カリキュラムの改善と見直しは、「内実」に相当する大学 4 年間の教育の質を問う課題と位置づけられます。入学した学生の皆さんに対して、各学部学科で質の高い教育が保証されなければなりません。また 4 年間の学生生活は、教育研究の面ばかりではありません。学内の住空間と学生交流を考慮した③学生サービスの充実も重要です。そうした教育と学生生活の両面にわたった改善と充実をはかりながら、最後は「出口」を意識した④就職支援の強化です。キャリア教育・個別指導・インターンシップなど、学生に寄り添う形で支援してまいります。平成 28 年度の 4 年生にとって、就活は昨年より早まるのが決定していますし、本学でもこの問題に対応した活動をすでに展開しております。

目次

- | | |
|-----|------------------|
| 1 頁 | ： 巻頭言 |
| 2 頁 | ： さざえ堂だより&さざえ堂紀行 |
| 3 頁 | ： 研究ノート |
| 4 頁 | ： 今後の予定 |

その他、本学では昨年 10 月より、職員の協力を得て、ほぼ 5000 名を数える学生に対し、アンケート調査と全学生の聞き取り面談を行って、大学に対する満足・不満足を調査しています。いま現在、おおよその意見や要望が集約されつつありますので、ま

とまり次第、優先順位をつけて応えてまいりたいと思っています。

皆さまにおかれましては、建学の精神「智慧と慈悲の実践」を基盤にすえた、これらの取り組みを実行することによって大正大学が大きく変革していく姿にぜひ注目していただきたいと

存じます。

最後に、本年が皆さまにとってより良き一年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成 28 年元旦

大正大学 学長 大塚伸夫

さざえ堂だより & さざえ堂紀行

＜さざえ堂初詣について＞

鴨台さざえ堂は 3 回目のお正月を迎えました。

元日から 5 日までを「新春初詣特別期間」として開館し、地域の皆様のお参りをお迎えしました。

普段は用意していない「まゆみくじ」（南三陸町で作られた、繭玉の中に入っているおみくじ）、鴨台さざえ堂絵馬の販売も行いました。絵馬は、さざえ堂前広場にある多幸鎮「オクトパス君」のモニュメントに奉納できるようになっていて、「置くとパス」できるよう、合格祈願の文字も多数見られます。

今年は好天が続いたこともありましたが、昨年よりも多い 603 名の方にお参りいただきました。これは鴨台さざえ堂が地域の皆さんに認知され、親しまれている証しであると感じています。



今年もご参拝の皆さんのご多幸と、ここ巣鴨地域の安寧と発展を祈り、またここに集う方々の交流により新たな価値を生み出していくような施設となりますよう努めてまいります。

＜成身院 百体観音堂（児玉さざえ堂）参拝＞

以前、本学人間環境学科がワークショップを実施していた埼玉県本庄市児玉町小平地区に日本三さざえ堂の一つに数えられる「成身院百体観音堂」があります（あと二つは会津若松と太田）。今回は「さざえ堂紀行」として参拝報告をしたいと思います。

正式には、平等院金剛寺成身院 百体観音堂といい、本学設立宗派の一つである真言宗豊山派に属してい

ます。天明 3 年（1783 年）本庄の遙か西方にそびえる浅間山が噴火しました。火砕流・岩屑なだれによって引き起こされた洪水により、1500 人を超える方が亡くなり、多くの遺体が吾妻川を経て利根川本庄付近にも流れてきました。その方々の菩提を弔うために建てられました。



外観は 2 階建ですが、中は 3 層になっています。

1 層目は聖観音を中央に祀り秩父 34 観音札所のご本尊が並んでいます。2 層目には坂東 33 観音、3 層目には西国 33 観音を祀り、1 つのお堂の中で 100 の観音札所を右遠三匝してお参りすることができます。

お堂の管理は、近隣の本庄市観光農業センターという施設の方が行っています。過去、二度の火災で焼失したり、第二次世界大戦後の荒廃の時代には観音像が盗難にあったりしましたが、地元の方々の篤志により浄財を集め、地区ごとの輪番の勤労奉仕で再建、護持してきたそうです。

小平地区は旧児玉町の市街地から秩父（皆野町）へ抜ける山道の途中にある山里です。素朴ながらも、しっかりとした文化と信仰が根付いていること、さざえ堂を介してしっかりとしたコミュニティが形成されていることがお参りしてわかりました。

鴨台さざえ堂も、地域の人々に日々お参りいただくことでそれらの方々の生活に溶け込み、心の拠り所となるようになるといいなあと思いながら成身院百体観音堂をあとにしました。（M）

研究ノート

現代社会と寺院の接点

僧侶派遣事業からみる仏教ニーズ

大手通販サイトの僧侶派遣

昨年 12 月、大手インターネット通信販売企業「アマゾンジャパン」（以下、Amazon）のサイト上で「お坊さん便」なるサービスが販売され物議を呼びました。

これは、法事・法要の際に全国一律定額・追加料金なしで僧侶を手配するサービスで、自宅あるいは墓地の 1 カ所での読経で 3 万 5 千円、2 カ所で行うばあいには 4 万 5 千円、さらに戒名授与を行うばあいには 5 万 5 千円という具合に値段設定がされています。

なお、Amazon で売買される商品は、Amazon 自身が直接販売する商品と、第三者が出品者となり、アマゾンサイト上で売買が行われる商品とに分かれます。この「お坊さん便」を出品しているのは「みんれび」という株式会社で、以前から低価格葬儀、海洋散骨、永代供養墓などをインターネットを通じて販売してきました。

しかし、これまで僧侶派遣・紹介業者がいなかったわけではありません。葬儀業者が僧侶を手配するというのも、ある種の僧侶紹介といえるでしょう。菩提寺を持たず、僧侶と接する機会のない人々にとって僧侶派遣・紹介業というのは、困ったときの頼みの綱として機能していたわけです。



しかし、年間総売上高が 79 億ドル（2014 年時点。当時のレートで約 9559 億円）に達する巨大市場で、僧侶が物品のように「販売」されているという事態は、仏教界を大きく揺るがしました。

仏教界のリアクション

Amazon での僧侶派遣の取り扱い開始をうけ、全日本仏教会では齋藤明聖理事長が談話を発表しました。

そこでは、布施はサービスの対価ではなく、同様に「戒名」「法名」も商品ではないことが明示され、今回のサービス取り扱いを「宗教行為をサービスとして商品にしているもの」として厳しく批判しています。

それと同時に、伝統仏教界が社会のニーズに耳を傾け、これからの教団・寺院運営に反映していかなければならないという自己反省も示されています。

実は、こういった「宗教の商品化」に対して、全日本仏教会が声明を出したのは今回が初めてではありません。

2010 年、大手流通グループ企業のイオンが、自ら手がける葬儀紹介サービスの中で布施の価格目安を打ち出した際にも、布施の価格を決めて商品のように扱うべきではないとの危惧を示していました。

全日本仏教会は、寺院と社会の接点が失われつつあることをふまえ、このようなサービスの登場に一定の理解を示しながらも、公式見解として、布施とは六波羅蜜の一つで慈悲心よりおこる財施であり、金額は受け取る側が決めるものではないという立場を終始貫いてきたといえます。

しかしその一方で、寺檀関係の希薄化から、葬儀・法要の簡略化、低額化、布施金額の明示化を好む人たちが増えてきているのも事実です。

カスタマーレビューの二極化

Amazon には、商品を購入した人が評価をする、「カスタマーレビュー」があります。購入者は、星の数（1～5）とともに商品の感想をサイトに掲載することができます。実際に購入していなくても、意見として「評価」を書くことができますが、商品を手にとることのできないインターネット通信販売だからこそ、この「口コミ」を購入の参考にする人も少なくありません。



2016 年 1 月 7 日時点で、「お坊さん便」に寄せられた評価は 41 件ありました。うち、最高評価（星 5 つ）をつけたものが 17 件、高評価（星 4 つ）を付けたものが 2 件あった一方で、最低評価（星 1 つ）を付けたものが 19 件ありました（これ以外は、星 3 つの普通評価が 3 件）。

そのほとんどは商品の購入していない人々の「意見」に過ぎないものですが、「お坊さん便」をめぐる世間の見方は両極化しているといえます。

それぞれにどのような意見があったのか少し紹介してみよう。

<星 5 つ（最高評価）の例>

- ・明朗会計、大賛成です。これはもう自然な流れであり、今後は更に加速する一方でしょう。
- ・現代の多くの人は地元から出て来ているので家の寺も無いし、ひいきにしている寺も無い。先祖代々の寺が有るなら高くてもそこに頼めば良いが、そういうのが無いなら、こういうサービスは非常に有りがたい。

・税金ではないのだから、お金を払う側に選択権が与えられるのは当然。

<星 1 つ（最低評価）例>

- ・お坊さんは、物や品ではない。
- ・どこの宗派のお坊さんが来るか分からない点が不安です。
- ・もし僧侶が必要であれば、近くのお寺に直接電話した方が確実かつ安価、さらに低リスクだと思います。

高評価のレビューは、利便性、料金体系の明示などにもとづくものが多いようです。一方で、低評価の内容は、派遣される僧侶への不安や宗教行為を「商品」として扱うことへの違和感などがあげられています。

しかしどちらも、仏教や僧侶を必要としていることには変わりありません。むしろ、つながる「方法」に対して抱く評価の違いといえるでしょう。「方法」は違えどもつながりたいと思う人が変わらずいるということは重要な点かと思います。

「お坊さん便」が仏教界に投げかけた問いは、寺檀関係が希薄化した都市部に限った話ではありません。地方においても、既存のつながりに安住せず、一回一回の葬儀・法要の場で、儀礼の持つ意義をきちんと伝えていくことが求められているといえます。

多死社会の時代に

厚生労働省の統計および国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、現在約 127 万人（2013 年時点）の年間死亡者数は、2040 年にピークを迎え、およそ 167 万に達すると見込まれています。今後の死者供養のあり方も従前どおりとは限りません。

現在、寺檀関係にとどまらず、家族、地域のつながりは希薄化しています。いかにいけば、つながりは所与のものではなく、自ら選択的に求める時代になったといえるでしょう。

僧侶や寺院がつながりを求められる対象であるうちに、「仏教者の社会的責任」について、よくよく考えておきたいものです。（T）

僧侶や寺院がつながりを求められる対象であるうちに、「仏教者の社会的責任」について、よくよく考えておきたいものです。（T）

僧侶や寺院がつながりを求められる対象であるうちに、「仏教者の社会的責任」について、よくよく考えておきたいものです。（T）



今後の予定

1 月 23 日（土）	11 時～12 時	花会式（真言宗智山派）	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	5 号館 1 階
	14 時～17 時	公開講座	7 号館 711 教室
		「食から考える貧困問題—地域とお寺の協働—」	

2 月 20 日（土）	11 時～12 時	花会式（浄土宗）	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	5 号館 1 階



巻頭言執筆者 紹介

大塚 伸夫（おおつか のぶお）
大正大学 学長 / 仏教学部 教授
大正大学 仏教学部 卒業
大正大学大学院 文学研究科博士課程 単位取得満期退学
専門は、インド初期密教の形成史ならびに真言密教思想
平成 21 年 3 月 博士（仏教学）学位取得
平成 27 年 11 月 学長就任 真言宗豊山派所属